

令和5年度に向けて

子どもから高齢者まで、 市民の皆さまの命と暮らしが守られ、 一人ひとりが幸せを追求できる まちでありたい

武蔵野市長

松下玲子まつしたれいこ



層力を注いでいきます。

令和4年度には、近年問題視されている気候危機について、市民の皆さまが議論をする場として「気候市民会議」を開催しました。自治体が主導で行う全国初の試みとして注目され、無作為抽出などで選ばれた16歳以上の市民の方に参加いただき、総勢68名による活発な議論が行われました。この成果を踏まえ、市民一人ひとりがどのような環境に配慮した取り組みができるのか、具体的なプランを示していきたいと考えています。

武蔵野市は令和4年、市制施行75周年を迎えました。市内のさまざまな施設が老朽化による建て替えや大規模改修を要する状況となつていますが、公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に安全で時代のニーズに合った施設整備を進めていきます。

これからも武蔵野市は、子どもから高齢者まで、市民の皆さまの命と暮らしが守られ、その上で一人ひとりが幸せを追求できるまちでありたい。さまざまな場面で皆さまからのご意見をいただきながら、よりよい武蔵野市を共につくっていききたいと思っております。

コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻など、混乱する世界の中で、改めて私たちには平和な社会が必要不可欠であり、健康で安全な日常生活を送ることが何より大切だと痛感しています。平和とは当たり前にあるものではなく、私たちが意識して作り上げていかなければならないものです。また、このコロナ禍の3年間で、経済活動を止めることなく日常生活を維持しながら、人と人との交流によって心を通わせる文化的な生活がいかに大切なかを再認識された方も多いのではないでしょう。日常生活を健やかに送る上で、コロナだけでなく、さまざまな病気や事故などのリスクを回避するためには、行政ができること、市民の皆さま一人ひとりができること、お互いに支え合ってできることによる総

合力が必要です。これからも皆さまと力を合わせながら、さまざまな困難を乗り越えていきたいと思えます。現在、武蔵野市が抱える大きな課題は、「少子高齢社会への対応」です。私は5年半前の市長選に立候補した際、「子ども子育て応援宣言のまち」を公約のトップに掲げましたが、昨年の日本の出生者数が80万人を切るというかつてない事態が起きている今、子育て支援はより一層重要な課題になっていきます。子育て支援とは、現在、子育てをしている世代のためだけのものではなく、将来高齢者になった時、自分たちを支えてくれる人を育むために取り組むべき未来への投資といえます。市は、「安心して産み育てられる子育て世代への総合的支援」の一環として、所得制限・一部負担金のない18

歳までの子どもの医療費助成事業など、さまざまな支援を行っています。子どもの権利を尊重できるように仕組みや子どもが自らSOSを発せられるような仕組みづくりについても取り組んでいきたいと思えます。また、子育てに対する社会全体の寛容なまなざしも大切だと考えます。まちの未来を担う子どもたちを社会全体で支えていく取り組みを大切にしたいと思えます。

一方で、今後増えていく高齢者のための支援も重要です。「住み慣れた地域に住み続けたい」と願う多くの高齢者の声に応えるべく、市では医療と介護が連携し、多職種で在宅生活を支える取り組みを行っています。看護小規模多機能型居宅介護や訪問看護ステーションなど、引き続き高齢社会を支える体制づくりに一